平成30年度

津田中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

夢や目標に向かって努力を続け，主体的に学習に取り組む生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭　清水　勝	校長　三好　康宏　　教頭　川中　善暢　　教頭　谷口　睦子 2学年主任　高橋　勤子　　1学年主任　佐藤　康徳

校長

三好　康宏　　印

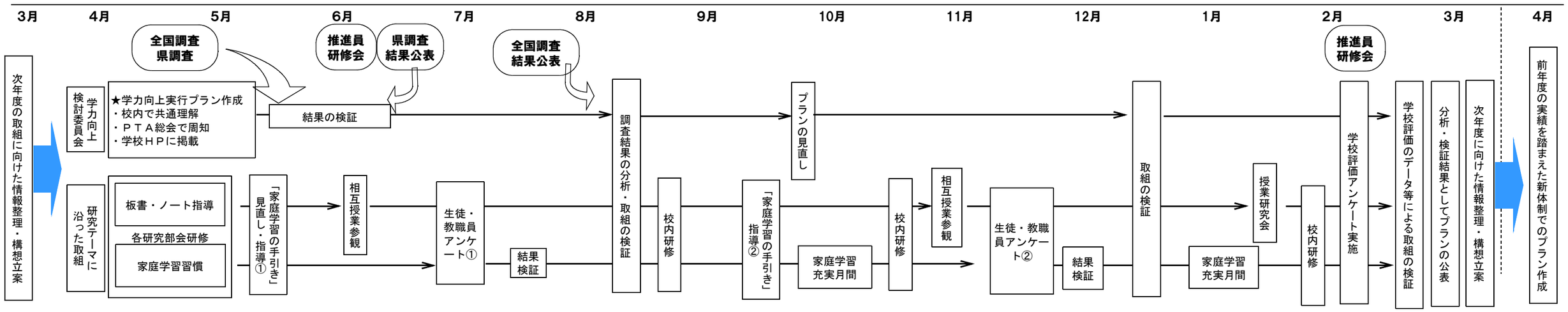
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

	児童生徒の状況	具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	全般に，落ち着いた様子で授業が展開できており，真面目で意欲的な態度で授業を受ける生徒がほとんどである。	①基本的生活習慣の定着に向け，あいさつができ，時間を守る生活を確立する。 ②与えられた課題には確実に取り組むことができる。	・全国調査・ステップアップテストで，平均正答率が前回より5ポイント以上アップを目指す。	・全国学力調査，ステップアップテストの結果から見られる本校の課題について検証し，各教科で具体的対策をとる。	①全員の教員がチャイム前に教室に入り，チャイムとともに授業が始められている（学力向上ｱﾝｹｰﾄより）。 ②89%の教員が「学習のめあて」を示すことができており，生徒が意欲的に授業に取り組む工夫や準備をしている教員も1月には95%と増えてきた。	・全国学力調査では，正答率が数学Aで昨年より8%上昇，全国平均より1.9%上回った。しかし，他の教科，項目では，平均を下回った。 ・「授業がわかる・ほぼわかる」（ｱﾝｹｰﾄ）と答える生徒が，83%と指標をわずかに下回った。
課題	どの学年においても，家庭学習の習慣が定着していない生徒が多く，基礎的・基本的な知識の定着が不十分な生徒が少なからずいる。	**具体的方策（教員の取組）** ①朝学習の5分前スタート，チャイム着席を徹底させる。 ②各教室で「学習のめあて」を示し，ICTの活用や小テストの実施など多様な学習により，わかる授業を実施する。	**取組指標** ①朝学習・チャイム着席がきちんとできる生徒が90%を超えるようにする。 ②「授業がわかる・ほぼわかる」（アンケート）と答える生徒が85%を超える。		**評価**：B **次年度における改善事項** ・理科では，計算問題が苦手意識があり，今まで以上に「振り返り」の中で計算を多く行うようにする。 ・国語では，語彙を増やすため，ことわざや慣用句，漢字の小テストを増やしていく。 ・教員は，「めあての提示」「グループでの話し合い活動」「ICT活用」などを意識して，「わかる授業」への工夫を実践しているが，さらに内容の充実や使用頻度を上げる必要がある。	

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

	児童生徒の状況	具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	授業での「グループ学習・まとめや発表」の実践が増え，自分の考えを説明したり文章にすることについて，少しずつ苦手意識が減少してきた。	目的に応じて，自分の考えをまとめ，他の人に説明したり，発表するなど，主体的・対話的な学びができる。	・「自分の考えを説明したり文章にしたりするのが苦手である」（アンケート）を40%以下にする。	・研究授業，相互授業参観を行うことで，学力向上のための「主体的・対話的な授業づくり」を積極的に導入する。	・授業で，「グループ学習を行い，意見をまとめたり発表させたりしている」と回答した教員が7月79%，1月84%と増えてきており，積極的な取組がみられる。	・アンケートで「自分の考えを説明したり文章にするのが苦手である」と答えた生徒が，7月52%，1月45%いて，成果指標には及ばなかったが，割合は減ってきた。
課題	受け身の姿勢で授業を受ける生徒がまだ多く，持っている知識を活用し，表現する力が身に付いていない生徒もいる。	**具体的方策（教員の取組）** ①学習活動の中で，ペア学習・グループ活動などをさらに活用して，教え合い，記述し，説明･発表する場を多く設定する。 ②発問を工夫し，多くの生徒の発言を導くようにする。	**取組指標** ・教員ｱﾝｹｰﾄで「グループ学習を行い，意見をまとめ発表した」割合が80%を超える。		**評価**：B **次年度における改善事項** ・授業展開において，グループによる話し合いや教え合う活動から，どのように深い学びにつなげていくかを考えていく。 ・受け身の姿勢で授業を受ける生徒がまだ多いため，持っている知識を活用し，説明・発表できる機会を今以上に増やしていく。	

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

	児童生徒の状況	具体的目標（めざす子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ほとんどの生徒がチャイムで着席し，教科書・ノート等の学習準備も整い，前向きに学習に取り組むことができている。	将来の夢や目標の実現に向けて，家庭学習の仕方，習慣を定着させ，学び続けるモチベーションを持つ。	②「家庭学習が習慣化している」（アンケート）と答える生徒が80%以上を目指す。 ②「自主学習ノート（3年は整理と対策）」の提出が，90%以上を目指す。	・宿題の提出が不十分な生徒には，放課後等に丁寧な個別指導を行う。 ・テスト前に，家庭学習記録を詳細にとらせ，目標に達するように点検・激励する。	・夏休み，冬休み，放課後などに質問教室を行う学年もあり，自主的に参加する生徒も現れてきた。 ・三者面談やPTA学年部会等を活用し，主体的で意欲的な家庭学習への取組を啓発する。	・自主学習ノートの提出が「できている・ほぼできている」生徒は，全体では87%と指標に達しなかったが，どの学年も概ね家庭で復習をして提出する習慣が身についてきている。 ・家庭学習の時間を確保している生徒が昨年までと変わらず71%と，家庭学習が依然として習慣化できていない。
課題	苦手な問題や思考力を問う問題に，時間をかけ粘り強く取り組むことが苦手である。また，家庭学習の方法の習得，及び習慣化ができている生徒の割合が低い。	**具体的方策（教員の取組）** ①課題の出し方を工夫し確実に提出できるように支援する。不十分な生徒には個別指導を行うとともに，家庭への啓発も行う。 ②家庭学習の時間が確保できるように，計画表を立てさせ結果を記録させる。	**取組指標** ①教員アンケートで「学習が遅れがちな生徒に何らかの手立てを行う」割合が増える。 ②テスト前の計画表の提出が，90%を超え，丁寧な点検活動を行う。		**評価**：B **次年度における改善事項** ・今年度は特に，「テスト前には，きちんと学習記録をつけている」というアンケートをとったが，1・2年生40%，3年生64%で，全体48%と明らかに学習記録がとれていなかった。そのため，次年度は，家庭学習の学習記録をきちんととることから定着化をはかる。 ・将来の夢を実現させていく過程で，学ぶことの大切さを実感し，より主体的に学習に取り組めるような進路指導，学習指導を行う。	

平成30年度　学力向上ロードマップ